

# AKAYA PROJECT

赤谷プロジェクト地域協議会 / (公財) 日本自然保護協会 / 林野庁関東森林管理局

## 赤谷の森だより

2019.3.15

vol. 40

赤谷の森でわかったこと

「ニホンシジカ」の低密度管理に向けた  
取り組みⅡ

赤谷森林ふれあい推進センター 齋藤 一広  
公益財団法人日本自然保護協会 松井 宏宇

トピックス

● 地域と繋がる赤谷プロジェクト

みなかみ町長 鬼頭 春二

● 群馬県立自然史博物館が谷川連峰企画展を開催  
絶景といのちが織りなすエコパークの山々

(巣材を運ぶイヌワシ 撮影: 赤谷プロジェクト調査員 上田 大志)

AKAYA no MORI

ミニ写真館

今回のテーマ 『春のめざめ』 (写真: 赤谷森林ふれあい推進センター)



フキノトウ



トチノキの冬芽



キクザキイチゲ



オオバクロモジ



キブシの花

# 赤谷の森で わかったこと

## ニホンジカの 低密度管理に向けた取り組みⅡ

赤谷森林ふれあい推進センター 齋藤一広／公益財団法人日本自然保護協会 松井宏宇

2018年3月に赤谷の森だよりVol.1. 37号で紹介したニホンジカの低密度管理に向けた取り組みについて、今回は今年度の取り組みを紹介します。

### 赤谷の森におけるニホンジカの現状と これまでの取り組み

赤谷の森では2008年から哺乳類全般をセンサーカメラにより調査していますが、ニホンジカ（以降、シカ）の生息状況を2008年と現在で比較してみると撮影地点数で約12.5倍、撮影頻度（RAI）で最大15.5倍と右肩上がりで増加しています。植生に与える影響量の調査では、摂食痕の地点数は増えつつあるものの、影響は湿地など部分的であり、全体的にはまだ健全であるといえる状態です。

赤谷プロジェクトでは、このような調査の積み重ねを経て、実際に捕獲試験を開始することとし、2017年にシャープシュー

ティングを試みました。結果としては、出現時間が夜間に偏っていることなどから、実施期間中シカの出現がなく捕獲には至りませんでした。

### 効率的な捕獲手法の開発 （罠による捕獲試験）

これを受けて、赤谷プロジェクト哺乳類WGでは、2018年度夜間でも捕獲できる罠による捕獲試験を実施しました。なお、実施にあたっては、群馬県林業試験場主任研究員の坂庭氏から技術協力を受けるとともに、猟友会をはじめ地域のみなさまのご協力も得て捕獲を実施しました。

使用した罠は、林内設置型罠1箇所（1機）、箱罠1箇所（1機）、くくり罠を2箇所（各3機）の3種とし比較検討を行いました。

林内設置型罠は、いきもの村の上部のスギ林内に設置しました。大きさは、縦・

横10m四方、高さ2mをネットで囲い、入口を2箇所開ける構造になっています。箱罠は、赤沢スキー場のゲレンデ周辺の林内に設置しました。大きさは、縦1m×横2m×高さ1mの鉄製の物で軽トラックでも運搬ができます。

それぞれ内側に誘引餌材として鉈塩を置き、シカが中に入り鉈塩に触れると自動で入口が閉じる構造で、同時に携帯電話網によりスマホ等へ自動通報する仕組みも取り付け、見回りコストを減らす取り組みも行いました。

罠に慣らすためにそれぞれ約1ヶ月前から設置し、10月29日から11月14日の17日間捕獲を試みましたが、構造的にシカが警戒したことや罠を慣らす期間が短かったことの影響か、結果としてどちらの罠も捕獲には至りませんでした。

くくり罠は小出俣林道のスギ林内2箇所を設置し、1箇所あたり3機の罠を設置しました。設置したくくり罠は（株）三生のスパーマグナムという機種を使用しました。

また、錯誤捕獲対策として、この罠は踏み抜きの荷重を変えられるため、シカ以外の大きさが異なる哺乳類を錯誤捕獲するリスクを減らせると考え使用しました。さらに罠を通常設置する獣道ではなく、獣道から外して設置することで鉈塩に興味を示さない他の哺乳類の捕獲を防ぐ工夫もしました。捕獲期間は、罠の設置と同期間で行い、稼働日数は見回りができない土日などを除いた13日間で実施しました。

### シカ捕獲に燃える 二人の担当者

13日間毎日見回りするのは大変でした。2019年度は林業試験場の坂庭さんのアドバイスを受けて、電波の届く場所にくくり罠を設置し自動通報装置を試してみたいと思います。

齋藤一広



今後、鉈塩とくくり罠を用いた試験の事例を増やしたいと考えております。

普段狩猟されている方で、この罠を使ってみてほしいという方がいらっしゃいましたらぜひご連絡ください！

松井宏宇



設置後もシカが警戒することなく鉈塩を舐める姿をセンサーカメラで確認でき、稼働10日目にオスシカ（0歳）1頭の捕獲に成功しました。なお、捕獲後のモニタリングでもシカの出現を確認できたことから、誘引効果を維持しつつ、同じ箇所でも再度捕獲できる可能性も見えてきました。

また、捕獲効率については、今回の誘引捕獲は1.85頭/100TN（トラップナイト）となり、比較的高密度下で誘引をせず獣道上に設置したくくり罠による捕獲データと比較しても、誘引捕獲の方がより高い結果となりました。今回は1頭だけの捕獲でしたが、低密度の中で捕獲できたことは、今後のシカの低密度管理に繋がる結果になったと考えています。（頭/100TN）とは、1機の罠を100日間稼働した場合の捕獲率）

### 今後の取り組みについて

2018年度の取り組みで、鉈塩を用いたくくり罠による誘引捕獲の有効性が確認できました。一方で見回りに掛かる労力の問題は残ります。2019年度は見回りコスト低減のため自動通報装置をくくり罠でも応用したいと考えています。また、罠と箱罠についても引き続き慣らし期間を多めにとるなど実証を継続するとともに、今後ともみなかみ町や地元猟友会と連携・協力してシカ対策に取り組んでいきたいと考えています。



林内設置型罠



箱罠



くくり罠

## 地域と繋がる赤谷プロジェクト



みなかみ町長 鬼頭 春二

# みなかみユネスコエコパークと赤谷プロジェクト

みなかみ町全景

みなかみ町は、地域の最大の宝であり資源である美しい自然や景観、水をはじめとするたくさんの森林の恵みを、未来を担う子どもたちにつないでいくとともに、町民が豊かな自然環境のもとでゆとりある暮らしが実現できることを目指しています。

その想いのもと、利根川源流の防人として「みなかみ・水・『環境力』宣言」を行うなど、自然と人間社会の共生を目指したまちづくりに取り組んできたことが、ユネスコエコパーク（BR：Biosphere Reserve 生物圏保存地域）への登録という形で世界に認められました。

町の森林面積の8割を占める国有林は、みなかみBRの「核心地域」と「緩衝地域」に位置づけられ、水源涵養や木材生産のみならず、素晴らしい景観を見せてくれたり、環境教育の場として活用されるなど実に多面的な機能を

発揮して、私たちの暮らしに深く結びついています。

そして、赤谷プロジェクトの目指す「人と自然の共生と持続可能な地域づくり」というテーマはまさにユネスコエコパークの理念そのものであり、地域・自然保護団体・国有林管理者という立場の異なる三者が協働する姿は国内外から注目され、みなかみBRの柱となる取組であると言えます。

町は将来にわたり、豊かな自然環境をまもり・いかし・ひろめていくために、赤谷プロジェクトを通じて蓄積された知見やノウハウを様々な形で活かし、国有林と連携を図りながら、共に持続可能な地域づくりを進めていきたいと考えております。

引き続きご指導ご協力をお願いいたします。

## 群馬県立自然史博物館が『谷川連峰企画展』を開催

# 絶景といのちが織りなす エコパークの山々

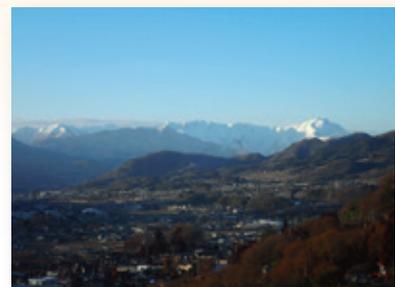
群馬県立自然史博物館では3月23日（土）～5月19日（日）まで「絶景といのちが織りなすエコパークの山々」と題し、谷川連峰企画展が開催されます。

美しい写真を交えて、谷川連峰とみなかみ町との関わり、ユネスコエコパークの紹介、谷川連峰の地形や高山植物、イヌワシ、クマタカなどが生息する豊かな自然と人々の営み、山からのシグナルとしてニホンジカやナラ枯れなどの問題とそれに取り組む人々、いつまでも美しく豊かな谷川連峰を後世まで伝えていくための活動として赤谷プロジェクトと谷川岳エコツーリズムを例に紹介します。

企画イベントとして、4月14日（日）13:30～15:30には同館学習室で記念シンポジウムを開催。また、5月26日（日）9:15～15:00には、みなかみ町との共同企画で谷川岳天神平観察会を実施するほか、3月の毎週土曜日14:00～15:00には、同館実験室でイヌワシのモビール作りなども行いますので、ぜひご来館ください。



赤谷のイヌワシ



谷川連峰



色々な活動をしているよ!

## 赤谷プロジェクトの活動

# トピックス



H30.10.14

### 新治小〜未来につなぐ森づくり〜

昨年ひろって育てたどんぐりをいきもの村の苗畑に植えました。今年も新しいどんぐりの苗を育てています。



H30.10.19

### 伊勢崎市立殖蓮小森林教室(猿小)

泊まれる学校猿小で殖蓮小の4年生児童に森林教室を行いました。



H30.12.2

### 沼田ごったくまつり

沼田市のごったくまつりに参加してプロジェクトの展示とネイチャークラフトを行いました。



H30.12.3

### 福島県三島町の桐植林地を視察

地域づくりWGメンバーで、三島町の桐の植林地などを視察しました。



H30.12.4

### 新治小森林環境教育事後学習

旧三国街道遠足の振り返り学習を行い、設置したセンサーカメラに写った動物などを観察しました。



H30.12.9

### 千葉市立さつきが丘中森林環境教育

千葉村において、さつきが丘中2年生に環境教育(森の体験ウォークラリー)を行いました。



H30.12.11

### 藤岡北高校環境学習

藤岡北高校の1年生に出前の環境学習(社会人講師)を行いました。



H31.2.2

### みなかみ町環境学習発表会

みなかみ町の小学生による環境学習発表会で森の恵み体験コーナーと展示を行いました。



H31.2.9

### 赤谷の森自然散策(冬) いきものサインをみつけよう

みなかみ町と共催でスノーシューを履いて自然観察、雪遊びを満喫した後、猿ヶ京で民話と紙芝居を楽しみました。

## 赤谷プロジェクト、って?

赤谷プロジェクトは、人と自然の共生と持続可能な地域づくりをめざして活動しています。地域、自然保護団体、国有林管理者という立場の異なる三者が共に活動するという、全国的にもめずらしい取組です。

活動地域は、群馬県みなかみ町北部、新潟県との県境に広がる約1万 ha (10km四方)の国有林。ほぼ中央に赤谷川が流れることから「赤谷の森」と呼んでいます。

植物や生き物の調査・研究、環境教育、研修の受入れなど、活動はさまざま。毎月第一土曜日に行われる「赤谷の日」には、県内外のサポーターが調査や体験学習などを行っています。どなたでも参加できますので、お気軽にお問い合わせ下さい。

※トピックスの詳細は

赤谷森林ふれあい推進センター

検索



## 赤谷プロジェクトサポーター募集!

(たくさん笑顔がまっています (^o^)/)



赤谷プロジェクトは、一緒に活動に加わっていただけるサポーターを募集しています。活動の中で研修の機会を豊富に用意しているため、自然や野外活動の知識や経験がないと心配される方も、学びつつ活動に参加できます。

### ■お問合せ先

(公財)日本自然保護協会：松井・島

赤谷プロジェクトについて詳しく知りたい方はこちらをご覧ください。

(公財)日本自然保護協会

<http://www.nacsj.or.jp/akaya/>

林野庁関東森林管理局赤谷森林ふれあい推進センター

[http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya\\_fc/](http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya_fc/)

この情報誌は、間伐材利用の紙を使用しています。

赤谷プロジェクト地域協議会

TEL 0278-25-8777

※森の恵みと学びの案内

理事(事務担当) 市毛 亮

メールアドレス m-ichige@takuminosato.or.jp

(公財)日本自然保護協会【NACS-J】

TEL 03-3553-4107

プロジェクト担当 松井 宏宇

<http://www.nacsj.or.jp/akaya/index.html>

メールアドレス akaya@nacsj.or.jp

林野庁関東森林管理局  
赤谷森林ふれあい推進センター

TEL 0278-60-1272

所長 森内 賀久

[http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya\\_fc/index.html](http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya_fc/index.html)

メールアドレス ks\_akaya\_postmaster@maff.go.jp